



味坂小学校 公開授業 第2学年1組 指導者 原口 美晴 先生  
道徳科 だれにでもやさしく「ぐみの木と小鳥」

【主眼】 小鳥とりすとぐみの木に対する二つの思いやりについて考えることを通して、親切にすると、自分も相手も嬉しくなることに気づき、困っている人に温かい心で接しようとする心情を育てる。

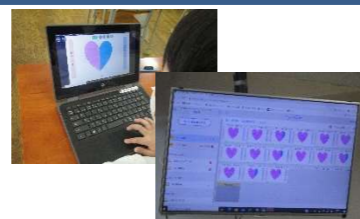
導入



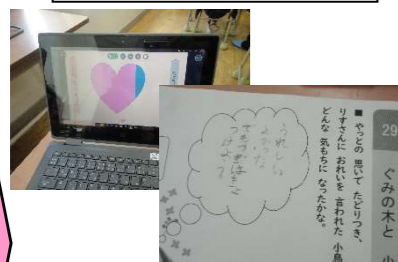
ロイロノートで事前に書いて提出していたアンケート「親切にしてもらってうれしかったこと」を、モニターに映しながら交流することで視覚的に課題意識を高めた。



デジタル教科書の動画資料を視聴させ、教材の場面や内容をより実感をもって把握できるように支援した。



【前半場面】  
ロイロノートで、ハート図を作成し（ピンク：ぐみの実をとどけるぞ！ブルー：やめようかな）、小鳥の気持ちとその理由を交流した。また、モニターで学級全員分を映し、一目で友達の考えを把握できるように支援した。



【後半場面】  
小鳥のリスさんに御礼を言われた時の気持ちをハート図で表し、その理由をワークシートに書かせ、交流した。「届けに行ってきた」「リスさんが無事でよかった」と発言し、うれしい気持ちを共有した。



最後に、小鳥の気持ちの変化とぐみの木とリスの気持ちを交流し、まとめを行った。これまでの道徳の学習の仕方を大切にしながら、効果的だと思われる場面にICTを活用した、ハイブリッドな授業展開がなされた。

終末

＜北筑後教育事務所 鐘江 貴子 指導主事 による指導助言（要旨）＞

- ・ 2年生の子ども達がタブレットを使い慣れている。原口先生が日頃からタブレットを使った学習実践を積み重ねられていることの結果であると感じた。話を聞くときは教師が一斉に端末に「ロック」をかけることで人の話を「聞く態度」が育っておりICTの学び方が効果的に培われている。
- ・ 心情をロイロノートの「ハート図」（ピンク・ブルーの割合）で表現させたことは効果的であった。色鉛筆でかくのと違って修正・調整が自由にでき、また描いた図を消さないで残すことができる。
- ・ 心情図をもとに表現した考えを発表させ、教師が子どもの実態を捉えて「どうして？」と揺さぶる発問を投げかけ、よく考えさせていた。低学年なので役割演技等も組み合わせるとさらによい。
- ・ 場面の心情の変化をハート図で比較させ変化の理由を考えさせるなど工夫の可能性が考えられる。
- ・ 「親切の対象の広がり」という観点から価値分析し系統性への理解を深めることが大事である。

## 参加者の感想

- ハート図の使い方は、非常に参考になりました。また、デジタル教材を用いて、教材文の範読をすることは、低学年にとって入り込みやすい有効な手段であると感じました。自分の学校にも広めたいと思いました。
- 児童パソコンのロック機能は、子どもにしっかりと話を聞かせる上で有効な手立てだと思いました。
- ICT機能のどの手立て（色分けしたアンケート・デジタル教科書・ハート図等）も、視覚化することで、児童の集中力を高め、意欲的に取り組む姿につながったと思います。
- 準備に時間のかからない効果的なICTの利用例を見せていただいた。これは、大変参考になった。
- ※ 「ハート図」をロイロノートの共有フォルダ【資料箱】→【福岡県小郡市 先生のみ】に入れて活用できるようにしています。このように、ICTによる授業準備の効率化につながる業務改善を今後も継続して進めていきます。

## 年度更新の見通し

児童生徒の卒業・入学、次学年への進級に伴い、アカウント設定・タブレット端末移動・データ移行が必要となるため、年度更新作業を次のとおり行います。

- ・ 2月中旬 卒業生・在校生のタブレット端末等の数量確認
- ・ 2月下旬 卒業生の学習データ整理・取り出し
- ・ 3月中旬 アカウントの卒業生分削除、新1年生分作成、在校生年度更新
- ・ 3月下旬 タブレット端末等の学校内移動
- ・ 4月上旬 新1年生へタブレット端末等貸与

※ 具体的な進め方は、通知文にてご確認ください。

## 【後期評価について】

ICT教育に係る後期評価は、タブレット端末導入初年度の成果と課題を把握し、今後に向けて、さらに効果的なICT活用について考えていくための参考とさせていただきます。結果については、各学校の中で分析・共有をお願いします。

## ★ 令和4年度のICT教育推進体制の改善策検討をお願いします

コア・ティーチャー研修の「振り返り」として次のような貴重な感想を寄せて頂きました。  
『星の花が降る頃に』という読み物資料の授業の最後に、発展的活動として作品の続きのストーリーを創作する活動を行った。その際、本年度はロイロノートを活用し、全生徒の作品を画面に取り込み、全員がその作品を読むことができるようにデータを共有した。以前までは、生徒が創作した作品（紙媒体）を班で交流させて意見交流するという形をとっていたが、交流する作品が少ないことや読む速度によって個人差が出ること等が課題であった。それに対し、ロイロノートを使用したことで、自分のペースで多くの作品に触れることができ、作品に対する相互評価も効率よく行うことができた。（※以下略）（三国中学校 C・T 野上 智美 先生）

本年度、このようにICTを活用した創造的で価値ある学習活動を拓く実践に推進校をはじめ各学校で積極的に取り組んでいただいていることに心から感謝致します。

一方で「タイピング能力」の個人差を解消するための取組の必要性が共通した課題として認識されてきているようです。学校によっては、・帯の時間を設けて計画的に積み上げる・委員会活動に「ICT委員会」を設置し高学年の子どもたちが輪番で昼休みに低・中学年の子供たちにタイピング指導を行う・「校内タイピング検定」を位置づけ目標意識を高めて主体的な練習を促す、等の創意ある工夫された取組も始められています。

自校の課題に基づき、是非、次年度ICT教育推進体制の工夫改善をお願いします。 秋永